

《原 著》

運動負荷 1 時間後に認める一過性の左心機能障害： ^{99m}Tc-心筋血流製剤心拍同期 SPECT による検討

今井 嘉門* 中島 崇智* 後藤さやか* 小仲 良平*
野木村 健* 後藤 豊* 岩野 圭二* 武藤 誠*
小川 洋司* 堀江 俊伸*

* 埼玉県立循環器・呼吸器病センター循環器内科

要旨 運動負荷 1 時間後でも、運動負荷により生じた左心機能不全 (PSD) が持続しているか、心拍同期 SPECT で検討した。対象は 152 例で、運動負荷 ^{99m}Tc-Tetrofosmin 心筋シンチグラフィを一日法 (負荷時・安静時) で施行した。血流画像で欠損の severity を求め、負荷時および安静時所見より対象は 4 群：正常 (n = 59)、梗塞 (n = 65)、軽度虚血 (n = 13) および高度虚血 (n = 15) に区分した。心拍同期 SPECT より左室拡張末期容積、収縮末期容積 (ESV) および駆出率 (EF) は計測され、PSD は 1) 安静時 EF - 負荷後 EF 5% および 2) 負荷後 ESV - 安静時 ESV 5 ml であるとした。PSD の頻度は正常 3.4%、梗塞 9.2%、軽度虚血 23.1% および高度虚血 40% で、高度虚血は正常および梗塞より高頻度であった (p < 0.01)。PSD は運動負荷 1 時間後でも存在し、高度虚血群で高頻度であった。

(核医学 37: 199-207, 2000)